

中間評価調書

整理番号	6	研究課題名	化学物質の DNA 損傷性簡易検索法の開発とその応用 「県内農産物の抗変異原活性調査」
研究概要	<p>これまで、ガン等の疾病の予防に役立つ食品等に含まれる生体防御因子を検索できる簡便な方法が開発されていなかった。当所では、生体防御因子の一つとされる抗変異原物質の活性を簡便に検索する方法(Spore rec-assay を利用した抗変異原物質のスクリーニング法 ,J. Health Sci., 46: 29-34, 2000 に掲載)を開発した。本調査研究では、この方法を用いて県内農産物の生体防御因子と見なせる抗変異原活性を調査し、その特徴を鮮明にすることで疾病の予防に役立たせるとともに、県内農産物の振興に寄与することを目的とする。</p>		
進捗状況	<p>県内農産物(野菜,果物)18品目25種類の変異原性物質{Trp-P-1, 2-AA(2-アミノアントラセン), 4-NQO(4-ニトロソキノリン-N-オキシド)}に対する抗変異原活性を調査中である。</p>		
研究の成果	<p>Trp-P-1 に対しては、ゴボウ、ハウレンソウ、キウイフルーツ、ブロッコリーに、2-AA に対しては、25 種全てに抗変異原活性が認められた。4-NQO に対する抗変異原活性は現在調査中である。</p>		
今後の計画	<p>本調査は、県の「安心いばらき農産物開発事業」に役立つため、農林水産部との共同研究を調整中である。現在、県内農産物の選択基準{栽培方法の差(農薬使用の有無や肥料の種類)、採取時期、品質等}、抗変異原標準物質の選択等に関し、農業総合センター担当者と協議中である。</p>		